

飛海岸石垣普請願い書

(飛村斎藤助七家文書) から

恐れながら願ひ上げ奉る  
口上書の覚

治兵衛後ろ、

一、石垣 二十五間

かに坪

一、波よけ石垣 六十間

石崎

一、同 石垣 三十八間

わし森

一、同 石垣 百二間

大森

一、同 石垣 三十六間

同所

一、水抜き石垣 七間

メ 六カ所

御普請料八十俵右痛み所、当四月中御見分なされ候節、恐れながらお願い申し上げ候通り、打ち捨て差しおき候ては、当秋に至り汐込み仕り候えば仕方ござなく候につき、御時節がら至極恐れ奉り候えども、よんどころなく、かねてよりお願い申し上げ奉り候大破痛み処の儀は、恐れながら御見聞下しおかれたく通りにござ候。お上の御苦勞にもまかりなり候おん儀、恐れ多く存じ奉り候え

ども、小村の儀にござ候えは、中々無人にてできかね候につき、御時節がら恐れ奉り候えども、よんどころなくお願い申し上げ奉り候。

なにとぞ右八十俵、三カ年にお慈悲を以って頂戴つかまつりたく、恐れながらお上取り扱いにまかりなり候様おん儀、恐れ奉り候えども、この段お願い申し上げ候。御きげんにおさわり申さざる様に、ご苦勞様ながら幾えにもよろしく御執成下しおかれ、なにとぞ願ひの通り仰せつけられ下しおかれ候様、ひとえに願ひ上げ奉り候。以上。

組頭 兩人  
名主 治兵衛 拜

天明二年みづのへ寅年  
(一七八二)六月  
小原治左衛門殿

(金浦旧六カ村史より)